

福島学習の旅

「福島原発事故から13年半—『福島』の今を福島で学ぶ」
11月10日(日)～11日(月)福島に行きましょう・申し込みは単会を通して

1日目 (11月10日(日))

受付 13時30分 福島県教育会館



教育会館は、向かって右側の事務所棟と左側のホール棟に分けられ、事務所等は鉄筋コンクリートの柱と梁でシンプルな構造に造られ、開口部が大きく確保されている。ホール棟は折板構造の壁と波形シェル構造の屋根を組み合わせた特徴的な構造を

しており、室内空間が無柱で大きく取られている。これは世界平和記念聖堂の設計コンペにて以前に前川國男により提案されており、その時のスタッフである大高が実現したものと言える。広島ピースセンターと並ぶ初期の戦後復興期のモダニズムの代表的建築であり、2003年に DOCOMOMO Japan により「日本におけるモダン・ムーブメントの建築100選」に選出された。(Wikipedia)

- | | |
|-------------|---|
| 14:00～15:00 | 学習会 I 「原発事故からの教訓(仮)」
講師 国分俊樹さん (元福島県教組委員長) |
| 15:10～16:20 | 学習会 II 「東日本大震災と原発事故(仮)」
講師 山崎健一さん (元福島県立高校社会科教員) |

ホテルサンキョウに移動・チェックイン
〒960-8041 福島県福島市大町7-11
18:00 交流懇親会
「ホテルサンキョウ2階」



宿泊
宿泊はシングルのお部屋を用意します。

2日目(11月11日(月)) フィールドワーク 福島交通バス

8:30 福島県教育会館発



東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災と原子力災害について、発災前の地域像を示す資料、発災当時およびその後の避難生活を示す資料などを約29万点収集しており、このうち約200点を常設展示室に展示しています。

地震、津波、原発事故の被害を伝える実物資料や証言映像に加え、タッチパネル、模型などもあり、未曾有の複合災害に理解を深めることができます。



震災遺構 請戸小学校

わたしにとっての請戸小学校は悲しみの場所ではなく、懐かしい思い出が溢れる母校なんです。地域に愛された学び舎であり、いつまでも変わらない心の拠り所です。

地震で揺れが大きくなる中、パニックにならないように深呼吸していました。周囲からは、今までに聞いたことのない「ガシャンガシャン！」という音が聞こえて。教室から校庭に避難している際、校舎内の棚が倒れているのを見て驚きました。



道の駅なみえ(トイレ休憩を含む)

浪江産品の、買う・見る・食べるが叶う道の駅がオープン。請戸漁港で水揚げされたばかりの新鮮な魚介類を使ったお刺身や海鮮丼が楽しめます。またここでしか手に入らない「なみえ焼そばコッペパン」や「なみえ焼そばソフト」などオリジナル商品も多数販売。変化している浪江町の今が分かる、流行発信地です。



大堀相馬焼付近見学

2011年3月に東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故が発生。浪江町全体が避難区域となり、全町民が避難を強いられました。震災前20軒以上あった窯元、そして職人たちも全国へバラバラに避難を余儀なくされ、産地としてのコミュニティは完全に寸断されてしまいました。さらに、大堀相馬焼特有の青磁釉の主原料である砥山石も、放射能汚染のため使えなくなってしまったのです。



福島駅 16:50 着(予定)

